

理事就任のご挨拶

浜松医科大学外科学第二講座（消化器・血管外科学分野）

竹内 裕也

この度、日本創傷治癒学会理事を拝命いたしました浜松医科大学竹内裕也と申します。創傷治癒に関する世界で最も歴史ある学術団体として、これまで創傷治癒学の発展に大きく貢献してきた本学会理事の末席に加えていただくことは、まさに身に余る光栄と存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

私は1992年に慶應義塾大学医学部を卒業し、故北島政樹名誉教授、北川雄光教授をはじめ、学内外の多くの先生方にご指導いただきながら、創傷治癒学、外科感染学、代謝栄養学を学ぶ機会を頂きました。2017年に現職の浜松医科大学に異動してからも、主に上部消化管領域の低侵襲外科治療開発に従事しながら、創傷治癒に関する臨床研究、基礎研究を行っております。最近では消化器外科SSI予防のための創洗浄方法に関する700例規模のランダム化比較試験を行い、近々結果を発表させていただく予定です。

本学会では吉田昌理事長のご指導の下、ガイドライン委員として「創傷治癒コンセンサスドキュメント—手術手技から周術期管理まで—」発行のお手伝いをさせていただきました。この貴重な経験をもとに、さらに会員の皆様に有益な情報を発信することで、微力ながら学会に貢献していけるよう尽力してまいります。

臨床医学と基礎医学、薬学、企業研究などを横断的に融合した日本創傷治癒学会のこれまでとこれからの発展は、間違いなく国民の医療福祉の増進につながっていくものと考えております。吉田理事長はじめ理事、評議員、そしてすべての会員の皆様のこれまでのご尽力に心より敬意を表したいと存じます。今後皆様方のより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

新理事就任のご挨拶

石川県立看護大学 看護学部

峰松 健夫

このたび日本創傷治癒学会の理事を拝命いたしました。歴史ある本学会でお認めいただきましたことを大変光栄に存じます。

大学院では畜産学教室に所属して生殖幹細胞の研究で学位を取得し



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2023.01

No.133

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

その後、基礎医学の分野で下垂体腺腫の発生・分化機構の解明や体性幹細胞を用いた中枢神経再生の研究に取り組んでおりましたが、2008年に東京大学で老年看護学/創傷看護学分野を主宰されていた真田弘美先生に出会い、創傷治癒学に足を踏み入れることとなりました。それ以来、真田先生の下で褥瘡の発生や創傷治癒の基礎研究とともに、ブロッティング技術を応用した創傷アセスメント技術(ウンドブロッティング)ならびに皮膚アセスメント技術(スキンプロッティング)の開発と応用に努めてまいりました。

本学会には2008年度に初めて参加し、規模は小さいながらも基礎的研究から実践までの幅広い内容が見事に融合した学術性の高い内容に興奮を抑えきれなかったことを今でも鮮明に覚えています。2010年度からは一度も欠かすことなく研究発

表もしくは講演をさせて頂いております。この学会で多様な職種の先生方とディスカッションさせて頂くことを、毎年目標の一つとしてまいりました。

2022年度からは石川県立看護大学に拠点を移し、新たな研究環境の整備を進めております。2023年度にはサラヤ株式会社よりご支援いただき、共同研究講座「看護理工学」を開設することも決定いたしました。学術集会でまた新たな知見をご紹介します、先生方とディスカッションさせて頂けるよう努めてまいります。

これから理事として日本創傷治癒学会の発展に微力ながらも力を尽くしてまいる所存でございます。先生方には、今後ともご指導、ご鞭撻いただきますよう、何卒お願い申し上げます。

WRR Editorialに名誉会員 赤坂喜清先生の紹介記事が掲載されました

Wound Repair and RegenerationのVolume30 Issue No.6のEditorialに、昨年名誉会員となられた前理事長 赤坂喜清先生(東邦大学名誉教授)の紹介が掲載されました。

本学会とWHSとのつながりのために長きにわたって貢献をいただき、ご定年された現在も引き続き本学会のために一躍いただいていることが、過去の写真とともに紹介されています。本学会の歴史の一コマでもありますので、ぜひご一読ください。

EDITORIAL

“Yoshiaki Akasaka: Impact on wound healing across the globe”, (Wound Repair and Regeneration, 30:6, P.613 – 616)

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/wrr.13058>

論文の投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE > =><Author Guidelines>と進んでいただくか、以下のURLへアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿(要ログイン)となっております。

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした
漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】 0120-329-970 【患者様・一般のお客様】 0120-329-930

受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く)

(2019年5月制作) RSCAB01-D